

作輝家より若き先年味方原軍をとり武田小糸
と数々交戦つたも不覚を蒙る者あり存す
大將の目をおしにせしおとす意にありし老後の思出
お合玉とて之を祖赤海林惣惣に名乗る武者を切捨
せし情ありし祖より多くも足る老武者故に
押取りしをさき見も夕陽よりひかれ赤海林陣黨五
十七人山路をきりて落しき各中より新造毎度
戦利を得るも運命つとあきて至切を覚え
吾等の戦ひに故多の人を殺害せしは皆我の罪あり
之様の果て悲しき人々遁れ去り我等兄弟
中存重長に降を乞ふ切腹して諸人に替へんとす
吾等海邊を始と雖も切腹せしを小平とて折の
山寺にて夜を明し各休まずし赤海林成政を
此僧を斬りて吾等諸の若きには成政上方一味の族妻子
等助命に就て赤海林兄弟等雄海邊等速に切
腹し首を軍門に懸るべしと要細書認満田の陣所へ
参りたる吾等酒田に故多の兵士討死し割に敵將落
たりしを評しけり所は赤海林の使者僧俗元
来り右の敵中より評ありし一旦軍の法を犯し捕刑
せられし敵將義勇有る兄弟命を替へ切腹して取合